



2019年3月期 第3四半期 決算説明資料

データセクション株式会社

2019年2月8日

証券コード：3905

1. 2019年3月期 第3四半期サマリー
2. 2019年3月期 第3四半期実績値
3. 第3四半期の活動実績
4. 2019年下半年期から来期への重点施策
5. 事業の考え方とビジョン

1. 2019年3月期 第3四半期サマリー

2. 2019年3月期 第3四半期実績値

3. 第3四半期の活動実績

4. 2019年下半期から来期への重点施策

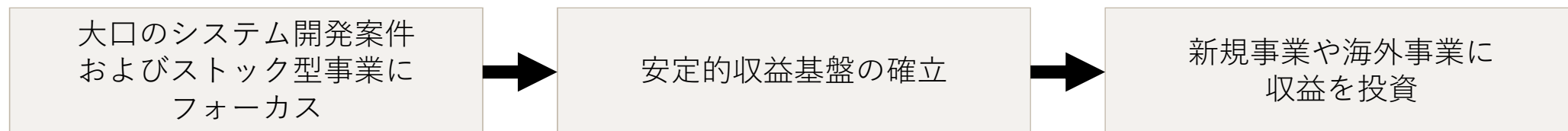
5. 事業の考え方とビジョン

財務状況

- ✓ 当第3四半期連結累計期間における財務状況は以下の通りとなった。
 - 売上高 …718百万円（前年比314百万円・77.5%増）
 - 営業利益…43百万円（前年比51百万円増）

実績

上半期から安定した収益の上がる体質に転換しており、第3四半期も堅調に推移。



- ✓ ディーエスエスとのシナジーにより売り上げ伸長が継続。
- ✓ 上半期にリリースした新規事業の販売活動を実施。
- ✓ KDDI株式会社の新居氏を社外取締役として選任。
- ✓ 医療領域の研究開発がNEDO※により採択。

※NEDO…国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

1. 2019年3月期 第3四半期サマリー

2. 2019年3月期 第3四半期実績値

3. 第3四半期の活動実績

4. 2019年下半年期から来期への重点施策

5. 事業の考え方とビジョン

損益計算書（連結）

当第3四半期の連結累計売上高は前年比77.5%増となった。要因は以下の通り。

- ✓ データセクションによるシステム開発案件売り上げの伸長。
- ✓ ディーエスエスの連結への取り込みと売り上げの伸長。

(単位：百万円)

	2018年3月期 (1Q~3Q)	2019年3月期 (1Q~3Q)	増減額	増減率
売上高	404	718	314	77.5%
営業費用	413	674	261	63.2%
営業利益	△8	43	51	-%
経常利益	△11	34	46	-%
親会社に帰属する四 半期純利益または四半 期純損失 (△)	△7	22	29	-%

貸借対照表（連結）

- ✓ 固定資産の主な増加要因は、M&Aにともなうのれんの増加244百万円および投資その他の資産の増加188百万円によるものである。
- ✓ 負債の主な増加要因は、新規事業開発を目的とした銀行からの借入金増加423百万円によるものである。

(単位：百万円)

		第18期末 (連結)	第19期3Q (連結)	増減額
資産	流動資産	1,569	1,553	△16
	固定資産	496	935	438
	資産合計	2,065	2,488	422
負債 純資産	負債合計	235	629	393
	純資産	1,830	1,858	28
	負債純資産 合計	2,065	2,488	422

1. 2019年3月期 第3四半期サマリー

2. 2019年3月期 第3四半期実績値

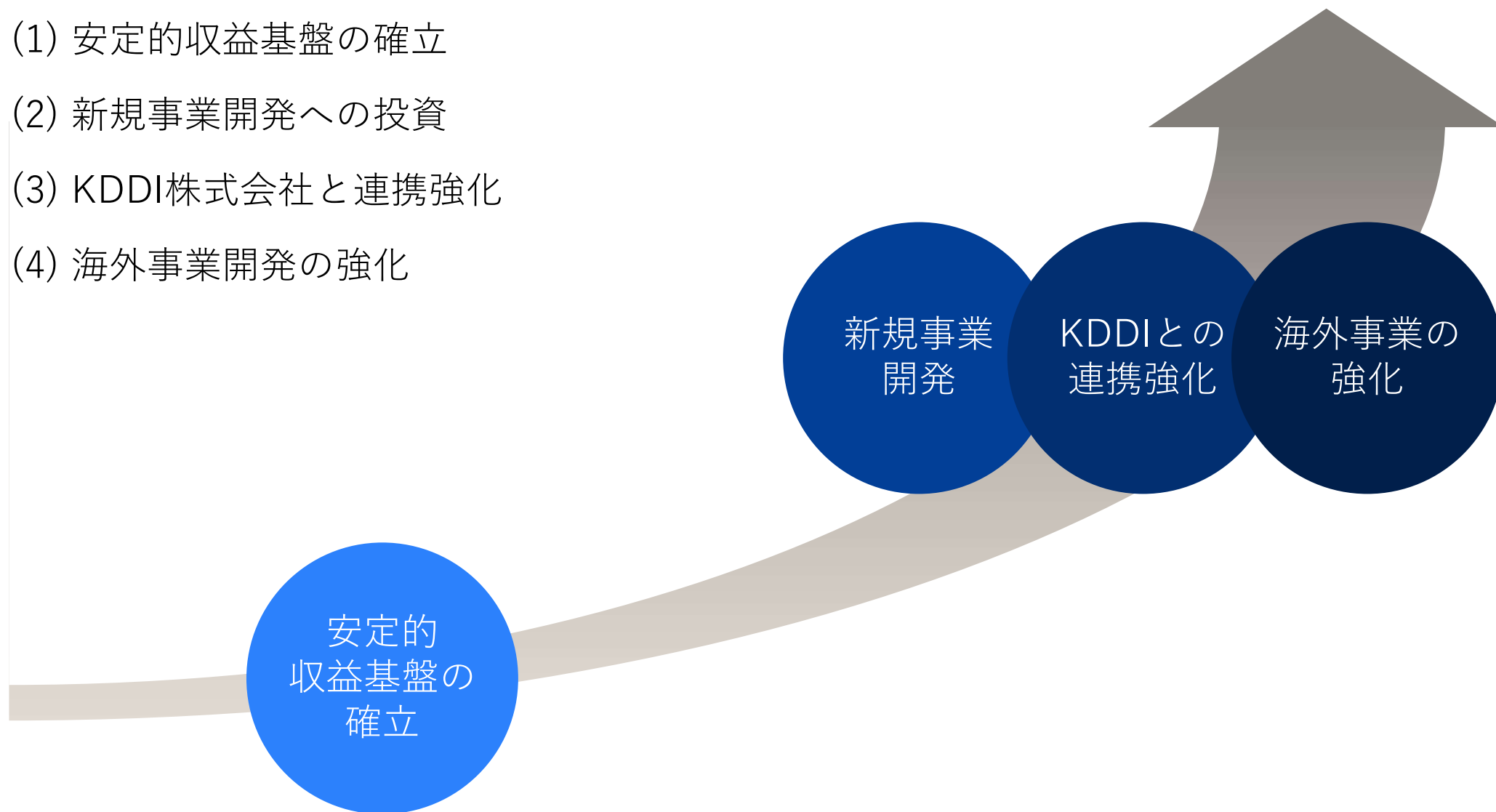
3. 第3四半期の活動実績

4. 2019年下半年期から来期への重点施策

5. 事業の考え方とビジョン

2019年3月期の戦略

- (1) 安定的収益基盤の確立
- (2) 新規事業開発への投資
- (3) KDDI株式会社と連携強化
- (4) 海外事業開発の強化



第3四半期の取り組み

(1)
安定的
収益基盤の
確立

第3四半期も、DSSとのシナジー効果発揮。
当第3四半期連結累計売上高は前年比77.5%増となった。

(2)
新規事業
開発

上半期にリリースした新規事業について販売活動を実施。
⇒①ドローントラフィックモニター ②FollowUP ③MLFlowアノテーション

医療領域でのAI技術活用に関する取り組みが進展。
⇒ NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）のプロジェクトに採択。

(3)
KDDIとの
連携強化

KDDIより社外取締役を迎え、関係をさらに強化。

(4)
海外事業の
強化

海外パートナーとの連携を通じ、
南米、東南アジア、東アジアへの展開を模索。

医療領域の研究開発がNEDOにより採択

データセクションが参画する「介護支援技術に関するプロジェクト」がNEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）に採択された。

介護者や医療関係者などから被介護者や介護現場に係るデータを収集し、AI技術によって遠隔医療の推進と医療・介護の負担軽減、社会保障負担の軽減につなげる取り組みが評価された。

医療分野におけるこれまでの活動実績

遠隔医療や介護という社会課題解決への貢献を目指し、かねてより医療領域におけるAI技術の活用を模索してきた。



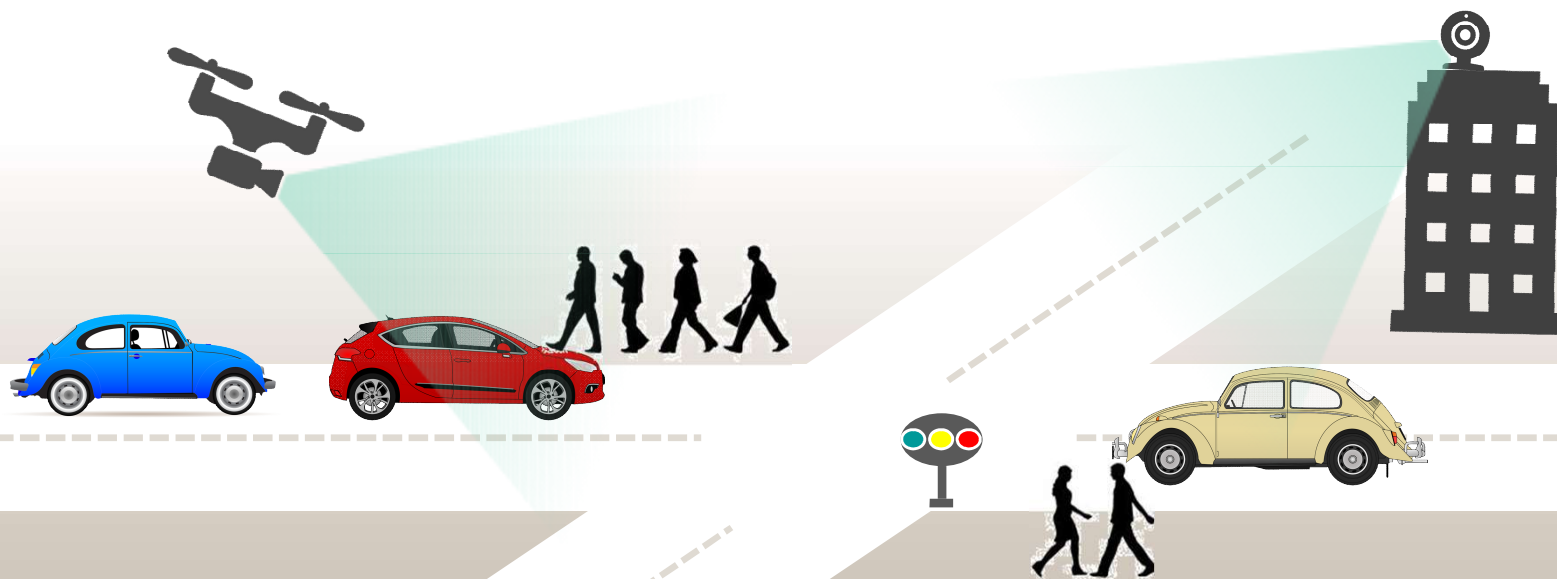
2018年5月、医療系ベンチャー先駆者の株式会社アルムと資本業務提携。

提携後第一弾取り組みとして、介護支援技術に関するプロジェクトを株式会社アルム、東京慈恵会医科大学、日本テクトシステムズ株式会社との四者で開始。

上半期リリース①

ドローントラフィックモニター

- ✓ ドローン×AIにより人手不足/人的コスト問題を解決するサービスの開発を展開中。
 - 2018年2月 太陽光発電設備点検サービス「ソーラーチェック」リリース
 - 2018年8月 交通量調査サービス「ドローントラフィックモニター」リリース
- ✓ 新サービス「ドローントラフィックモニター」には、大手自動車会社との共同研究で培った自動運転のAI技術を投入。



ドローン/固定カメラにより撮影した動画をAI解析し、交通量を計測

上半期リリース②

FollowUP (フォローアップ)

- ✓ 2018年7月、小売店向けマーケティングツール事業を譲受。
(国内外2,000店の導入実績のある事業の国内事業を譲受)
- ✓ データセクションの画像解析技術をプラスして今後さらに差別化を図る。



上半期リリース③

MLFlowアノテーション

- 背景** ✓ 機械学習を利用したソリューション開発のニーズが高まっている一方、教師データの作成（アノテーション）を行う人材が不足している。
- 特長** ✓ 開発プロジェクトのニーズに合わせてアノテーション作業を代行。
✓ 大量かつ高品質な教師データを短期間で納品。
✓ データセクション独自のAI開発プラットフォーム「MLFlow」と連動。発注者と作業双方で作業進行と教師データの品質を確認可能。



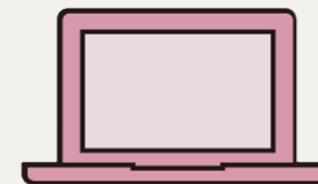
Point 1

画像、テキストなど、プロジェクトのニーズに合わせたアノテーション作業を代行。



Point 2

独自に組織したアノテーターチームにより、大量かつ高品質な教師データを短期納品。



Point 3

発注者と作業双方で進捗確認が可能。

1. 2019年3月期 第3四半期サマリー

2. 2019年3月期 第3四半期実績値

3. 第3四半期の活動実績

4. 2019年下半期から来期への重点施策

5. 事業の考え方とビジョン

① 上半期リリースのサービスを収益の柱に育成

方針

- ✓ 上半期にリリースした三つの新規事業について引き続き販売活動を継続。
- ✓ 新規事業は国内外でニーズの高まる分野であり、収益の柱として育成する。

今後の活動

①ドローン トラフィックモニター

- ✓ 販売チャネルの構築を行う。
- ✓ 解析対象の多様化や細分化など顧客ニーズに対応する。

②FollowUP

- ✓ 多店舗展開を行う大型チェーン店の新規開拓を行う。
- ✓ パートナーと組んで海外市場も開拓する。

③MLFlowアノテーション

- ✓ 利益率向上に向けた作業効率化を実施する。
- ✓ 今後も継続して販売強化施策を進める。

② 医療領域における新規事業開発をさらに強化

今後の活動

- ✓ NEDO公募への採択とプロジェクト参加を足掛かりに、医療系ソリューション開発を推進。
- ✓ 医療領域でパートナー会社との連携を国内外問わず強化。業界に精通する企業との連携を強化し共同事業の立ち上げを目指す。
- ✓ パートナー企業との連携と共同事業の立ち上げをグローバルに展開。

1. 2019年3月期 第3四半期サマリー
2. 2019年3月期 第3四半期実績値
3. 第3四半期の活動実績
4. 2019年下半年期から来期への重点施策
- 5. 事業の考え方とビジョン**

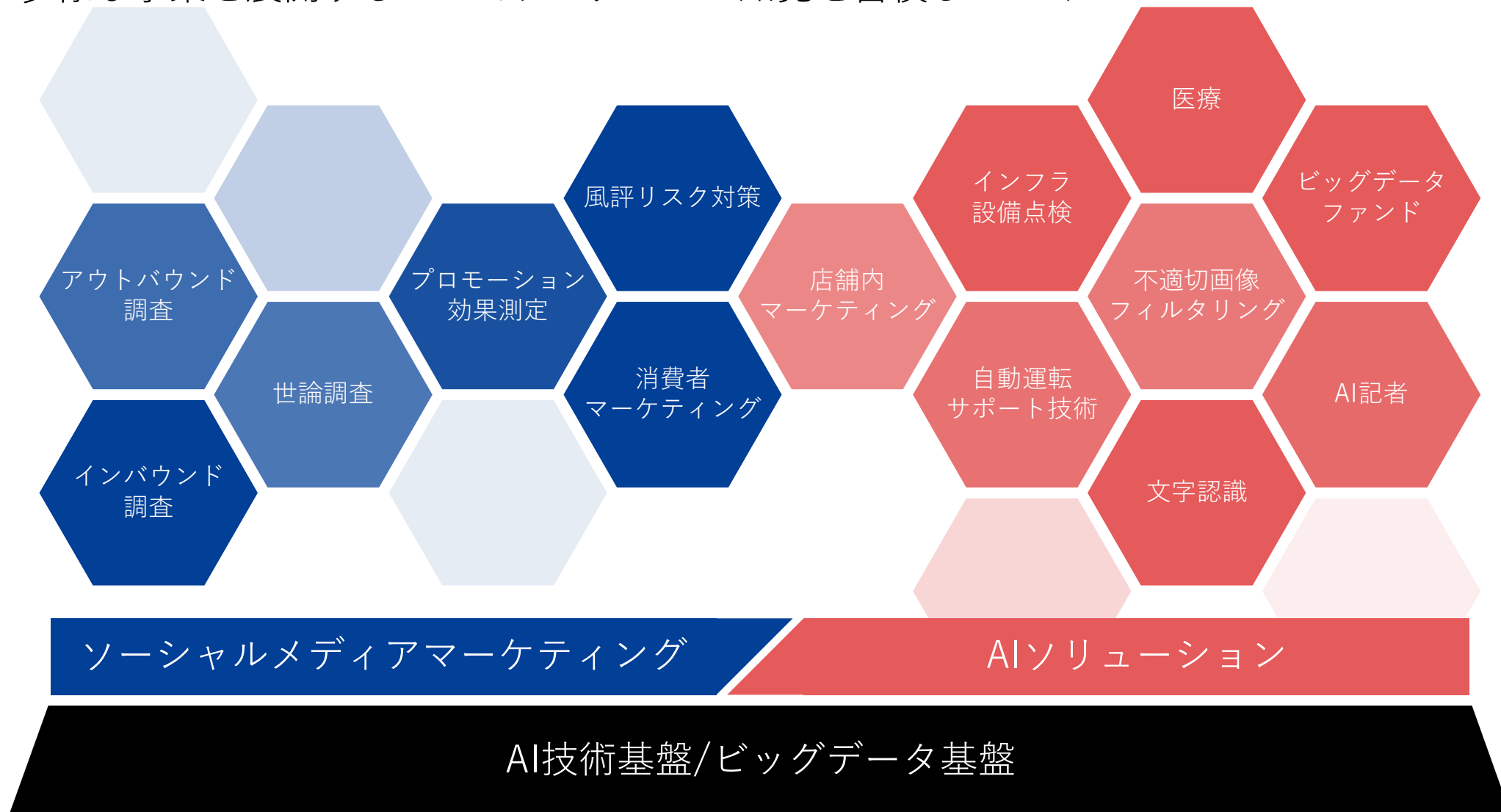
データセクションの長期的な取り組み

- (1) 事業領域
- (2) データセクションの成長シナリオ
- (3) 事業の基本姿勢
- (4) データセクションのビジョン / ミッション

(1) 事業領域

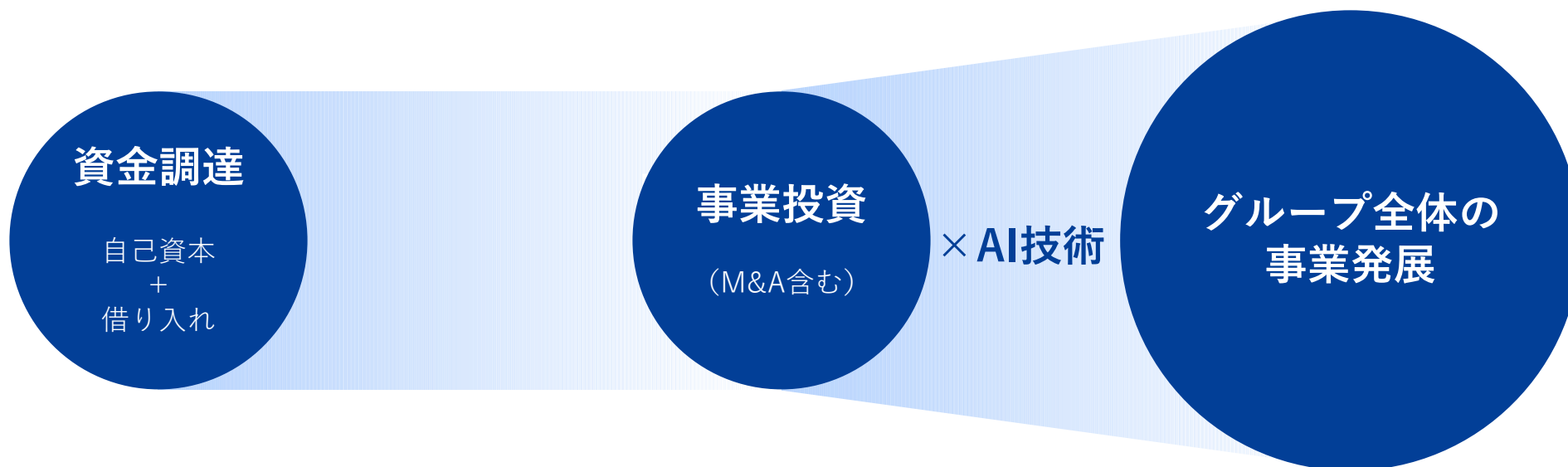
データとAI技術を生かした事業展開

多様な事業を展開することでデータとAIの知見を蓄積していく



戦略的な投資の実施

借り入れも含めた資金調達を行い、AI分野における事業展開を狙う。



Action

キャピタルのみならず、借入を含めて資金調達を実施
レバレッジを効かせた積極投資

Target

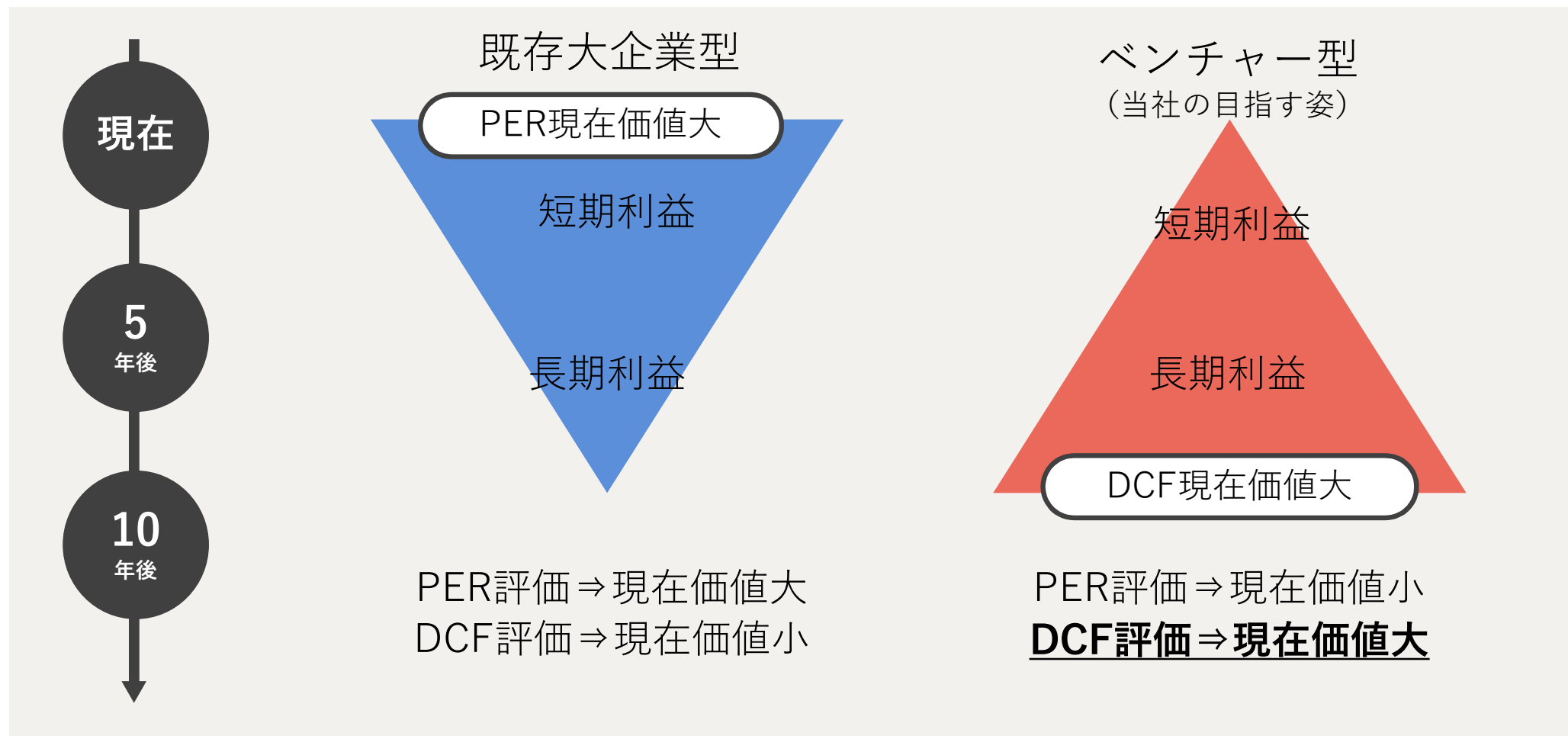
- ①事業シナジーがあり大幅な成長を明確に期待できる事業体
- ②売上利益の増大を見込むことができる事業体

Growth

AIなど新規事業への投資で事業拡大
労働集約型のレガシー事業においてAIを活用することで成長企業へ転換させる

長期的な成長を重視して人材・開発に投資

短期的な利益最大化だけではなく、長期的な利益に基づく現在価値最大化を重視する。



Vision : What we will be ...

人々の暮らしを世界中でバージョンアップし続ける

Mission : What we should do...

Change the Frame

テクノロジーで実社会に変革をもたらし、新しい暮らしをつくりあげる

データセクション株式会社

所在地 東京都品川区西五反田1丁目3-8
五反田御幸ビル 8F

役員構成

代表取締役社長 兼 CEO	林 健人
代表取締役社長 兼 COO	平本 義人
取締役CFO	望月 俊男
取締役CTO	今井 真宏
取締役（社外）	中嶋 淳
取締役（社外）	新居 眞吾
常勤監査役	田代 彰
監査役（社外）	石崎 俊
監査役（社外）	横山 大輔
会長	澤 博史
顧問	橋本 大也

事業内容 マーケティングリサーチ事業
データ提供・加工事業
画像解析事業
海外SNS分析事業
業務系データ活用・最適化事業

ソリッドインテリジェンス株式会社

海外ソーシャルメディアを中心としたビッグデータ活用支援

株式会社ディーエスエス

電子計算機および附属機器の販売およびその保守

DAC DATA SCIENCE VIETNAM COMPANY LIMITED

アジアのビジネス拠点、開発拠点、オフショア拠点

株式会社日本データ取引所

公正性・安全性・信頼性を備えた最適なデータ取引市場の提供

データセクション株式会社

info@datasection.co.jp
03-6427-2565

〒141-0031

東京都品川区西五反田1丁目3-8 五反田御幸ビル 8F

<https://www.datasection.co.jp>

注意事項

- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。